

# 「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域における草の根活動支援事業）」活動報告

## 低炭素化社会の実現に向けて

### 里山資源の循環活用

#### ～木のぬくもりと里山保全がもたらすもの～

- 開催日時 : 平成 26 年 12 月 14 日 (日) 13 : 30～16 : 00  
開催場所 : 河内長野市立林業総合センター「木根館 (きんこんかん)」  
内 容 : 里山資源の循環活用～木のぬくもりと里山保全がもたらすもの～
- ・ペレットストーブなどの展示説明
  - ・ペレットストーブを囲みながらの洒落た感じの里山座談会
- 講師 柳沢 直 (岐阜県立森林文化アカデミー准教授)  
「今使われている里山 ～粗朶とその利用～」  
佐久間 大輔 (大阪市立自然史博物館)  
「里山と生物多様性」  
都解 浩一郎 (大阪府森林組合)  
「里山の木質バイオマス利用」

参加者 : 13 名

当日の様子 :



#### ペレットストーブなどの展示説明の様子

はじめに、都解講師から森林組合の取り組みや薪ストーブや薪の販売などについての話しの他、ペレットに加工された木材が利用できるペレットストーブについての話を聞いた。一般の家庭と森林組合との距離を縮める意味でも、森林組合がどのようなことをしており、身近な存在として今後の関わり合いを模索することも試みた。

## 当日の様子（つづき）



### 里山座談会の様子

今でも使われている里山として、粗朶に関連し、粗朶沈床というような工法などのついでに興味深い話しなど、それらが導く生物多様性に関係した講演を柳沢講師からしていただいた。

佐久間講師からは、大阪をはじめとする里山利用の変遷やそこに生息する生きものとの関わりなどが話された。また、いかに人が里山に関わりをもち、ペレットストーブなど、今またその新たな価値観をもつことで、里山の利活用が少しでもすすめることができるかなども議論された。

写真上は和傘の骨を留める軸部の「ろくろ」という部材が特定のエゴノキが使われるという内容であった。「日本の和傘 絶滅の危機を救え! エゴノキ・プロジェクト」等も開催されているようである。(岐阜市加納地区は日本有数の和傘の産地)

経済的な価値をもち、製品を生み出す資源の供給源として生物多様性は重要である一つの事例でもある。また日本の伝統にもつながっている。